平成２８（２０１６）年度

第一回　吹田市立博物館協議会

議　　事　　録（要旨）

日　時　　平成２８年（２０１６）年　　５月２０日（金）　午後１時３０分～午後４時００分

場　所　　吹田市立博物館　　２階　講座室

出　席　　一瀬・村田・広瀬・橋爪・辻本・田中・伊藤・岩﨑・大元・大森・岸本・喜田委員
（欠席　佐久間委員）

【１　開　会】　藤井副館長（出席状況の確認）
（副館長）出席委員数は全委員１３名の過半数を超えています。

【２　挨　拶】　中牧館長　挨拶

【３　新委員の紹介】　藤井副館長
学識経験者関係者　　田中（敏雄）委員にかわりまして、橋爪委員が着任されました。
公募委員関係者　　外川委員にかわりまして、喜田委員が着任されました。
＊職員異動【職員配置図（Ｐ２）参照】
今年度組織改正により生涯学習推進室がなくなりました。
地域教育部次長山本が異動　木戸が着任。（４月１日着任）
庶務グループ参事小山が異動　坂原が着任。（４月１日着任）
文化財保護担当中岡が異動　安藤が着任（４月１日着任）

【４　議長・副議長の選出】　　議長は一瀬委員　　副議長は村田委員に

【５　案件（１）事業報告（平成２７年度後半～）】
（議　長）その前に傍聴者はおられますか。
（副館長）傍聴希望者はございません。
（議　長）（１）事業報告（平成２７年度後半～）について事務局から説明を受けたいと思います。
（副館長）入館者数等の動向について説明します。展示を観覧された方を観覧者、講演会、講座等にご参加の方、展示の観覧以外で博物館をご利用の方を講座等受講者といい、観覧者数と講座等受講者数を加えた合計を入館者数としています。平成２７年度の入館者総数は、３４，０１２人です。前年度より約３，０００人増です。講座等受講者数１９，０００人台でほぼ変わりはありません。観覧者数は２７年度は１４，４３３人。２６年度は１１，６９１人です。その分がプラスになっています。春季特別展「生誕１００年西村公朝展」において、前年度より３，２６１人増えたものが年度合計に反映していま

す。平成２８年度は４月のみですが入館者数が２，０５３人で、昨年度の１，７４７人より約３００人増えています。今年度も順調なスタートが切れました。
（事務局）Ｐ５～Ｐ１４に基づき〈平成２７年（２０１５年）１０月３１日～平成２８年（２０１６年）５月１９日〉の事業報告。
（議　長）個別的なご質問は、議題の（３）課題別討論、事業点検・評価があります。そちらでご発言ください。今の報告についてご意見がありますでしょうか。
（議　長）１月～３月は入館者が少ない時期だと思いますが、学校行事でかなりの人数に来て頂いて、大体横這いで 3,000～4,000 人近い方に来て頂いていますが、有料入館者の小・中学生数が平成４年の 2,434 人から明らかに減少していますが、1,000 人台が崩れるのが、平成９年で開館から５年ぐらいです。何か事情があるのでしょうか。
（事務局）市内小中学生に無料で市内文化学習施設を回るスタンプラリー「ぐるっとすいた」を実施し始めました。スタンプがすべてそろうと修了証が貰える事業です。この事業で無料来館する小・中学生が増えた分、有料が減少しています。
（議　長）無料観覧者としてカウントされているということですか。
（事務局）必ず無料観覧者数に含まれています。
（議　長）全体としては、そんなに目減りはしていないということでよろしいですか。
（副館長）年によって上下はありますが、極端に減っていることはありません。
（議　長）（２）事業計画平成２８年度後期～２９年度前期の事業計画（案）について、事務局から説明を受けたいと思います。
（事務局）Ｐ１５～Ｐ２３に基づき、平成２８年度後期～２９年度前期の事業計画（案）の報告。
（議　長）特別展など詳しく説明を頂きましたが、それに関わらずあらゆるジャンルで委員の意見を求めたいと思います。
（委　員）Ｐ１７の職場体験学習でＰ１０の数字を拝見するといろんな学校から多くの人数を受入れていますが、受入れに際して、基準とか方針があるのでしょうか。
（事務局）市内中学校は１８校です。日程が重ならない限り総て受入れる前提で実施しています。１校３人、一日当たり１２名で４校を限度にしています。それ以上の場合はお断りしています。先着順ではありませんが順次受入れています。
（委　員）学校との連携は重要な点で、積極的に取組まれていると思います。博物館に勤めていますので、要望が多くて苦慮する場合も多くあります。
（副館長）基本的には、博物館の仕事を体験して頂く形で実施しています。当館には文化財保護グループもあり、、土器の整理など学芸員ではない職員が携われるというメリットもあります。資料整理などを中心に実施しています。
（議　長）他いかがでしょうか。
（委　員）平成２９年度「（仮題）田能村竹田と北大阪」ですが、田能村竹田は、重要文化財の作品がある画家です。どこまで広げるか、名品を展示して欲しいです。大分県竹田市出身で、竹田が住んでいた竹田荘が残っています。吹田から岡藩蔵屋敷があった大阪中之島に帰って死去しているので、そういう辺りが面白いので是非入れて頂きたい。金子雪操の魅せる！青と緑というのはいいですが、群青と緑青という具体的なイメージが入っている方がいいと思います。
（事務局）竹田についての展覧会では、吹田での開催という意味もありますので、大阪に渡ってから最

晩年、亡くなるまでの活動に注目し、作品も出来れば大分方面から借用して、展覧会を実施したいと思います。最晩年、吹田に滞在していたことを広く知って頂ける展覧会を開催するために、吹田市内での竹田の足跡がわかるよう最大限調査を進めております。金子雪操ですが、ご指摘の通り緑青や群青がどういった色合いだったか、作品を通じて詳しく解説できるよう取組みたいと思います。

（委　員）岡藩・中川家が摂津の国から豊後竹田へ行った時に、尼崎の方の出身者田能村の先祖が一緒に行きました。竹田を扱う場合は突然九州から来たのではなく、田能村家の歴史も含めた展覧会をしてください。

（委　員）金子雪操は８、９年ほど逗留ということですが、これは一時的な逗留ですか。それともこの期間、吹田に住んで、ここを本拠地に活動したということですか。

（事務局）元々金子雪操が吹田に来た理由は、吹田村竹中知行所の文人として活動していた代官井内左門に才能を買われ招待を受けて来たそうです。住居を構えて妻も娶っていたという話もあります。吹田市内の民家や支援者、お寺などに作品を多く描いていたと思います。吹田に居を構えて８、９年は活動を行っていたと思います。

（委　員）その後、また大阪に。

（事務局）大阪に戻って、大阪で亡くなりました。

（委　員）大坂画壇ということで括られていますので、大きくは大坂画壇の画家であって、ある時期、吹田に住んでいた。それを本拠にして活躍していたということですね。

（事務局）元々吹田に来る前にも大阪（現在の大阪市内）に暮らしていましたので、基本的には大阪周辺、大阪での活動になるかと思います。

（委　員）今年度からさわる展が館蔵品展になるという大きな変化だと思います。それに関連して、２つ確認をします。一つ目の質問は、さわる月間です。今までのさわる展の実績と伝統もありますし、さわる月間を継続していくことが大事だと思いますが、先程一年に１回ぐらいはという説明でしたが、基本この時期６月、企画展の時期に合わせて実施するお考えなのか、或は別の展開をお考えなのか、これが一つ目の質問です。二つ目の質問は、さわる展が館蔵品展に変わるという、昨年の協議会でも質問し丁寧なお答えがありました。僕の理解では、決定的な方針はまだ決まっていないと思っていたのですが、「さわる」という観点から掛け軸に「さわる」とかいろいろ考えて、トライされていいと思いますし応援しますが、やはり展示本来の趣旨とか、内容からすると、掛け軸に「さわる」というのはややおまけ的な・後付け的なもの、つまりこういう美術展があるその計画を立て「さわる」要素はどのように加えられるか、「さわる」で何が出来るか後付で考える。それもありかと思います。ただ、従来さわる展でしてきたことは、最初から「さわる」という鑑賞法を前提にして、展示主旨を組み立てていた訳です。最初から前提にするのか後付けにするのかで、意味合いが変わってくると思います。今後、企画展の枠で館蔵品展をされていく訳ですが、「さわる」をどう位置付けるのか。以上、さわる月間をどうするのか、企画展での「さわる」の位置づけをどうするのか。２点質問します。

（事務局）さわる月間ですが、さわる展が常設展になるとご理解ください。一年中３階ロビーにはさわれる展示物が置いてあります。特別展や企画展などでロビーを使用する場合は縮小せざるを得ませんが、さわれる展示をロビーの何処か、また別の場所に置く考えでいます。仏像、バスオールも常設化してさわれる展示です。一年中展示するという考えです。一年中展示をしていると注目される期間があった方が良いという考えもあり、この時期にさわる月間と称して、企画展と同時開催でさわる展示もイベントを実施して注目してもらうねらいです。２点目は、基本的に「さわる」ことができる要素は、この期間

の企画展に限らず他の特別展・企画展に、可能な限り入れていくのはある程度、共通した理解だと思います。但し、展示の中身によって、最初から「さわる」ことが前提で考えるタイプの展覧会とそうでないタイプがあると思いますので、企画者なり展覧会のテーマによって変わると思います。さわる月間の期間中に行われる企画展のみが「さわる」ことが出来る展示を一部展示するという趣旨ではありません。

（事務局）今回、美術の展示ということで、「さわる」という体験をどのようにしてもらえばいいのか。初めての試みで、中々難しい所もあり、総てをうまくできる形ではなかったと反省をしています。企画展は来年度も美術ということではないので、初めて取組んだ今回の企画展を活かしながら、バリエーションに富んだ「さわる」という体験が出来る展覧会を学芸員一同で考えたいと思います。

（委　員）来週企画展の懇談会があるのでそちらの方で発言したいと思います。一つだけ、先程さわる月間の趣旨説明がありましたが、今後の時期というのは基本この時期ですか。

（事務局）時期は、この時期と定めてはいません。今迄この時期に開催していたので今回はこの時期にあてています。時期については検討します。別の時期にさわる月間を実施することはあり得ます。

（委　員）どの時期か不明ですが、実施していくということですね。

（事務局）今回さわる月間として初めての試みですので、これから先１０年、２０年もやっていきますと断言は出来ませんが、これまでも変わってきたと同様にその時期に一番相応しい形、博物館の体制で出来ること、その時々で考えていくべきだと思います。今出来ることでよりよい形と判断してやっているので、５年、１０年後は分かりませんが、今年だけで終了ということにはならないとは思います。

（委　員）今後５年の中期計画は、さわる月間については書いていないのですね。

（事務局）書いていないです。

（副館長）それについては、企画展の位置づけではなくて、基本的に「さわる」要素の部分は、前回常設展に考え方を移行しようということになっていたと思いますが、過渡期のまだ十分ではない状況であるというご意見もあり、いきなり一足飛びというのも難しいということも議論になっていたと思います。資料の方に常設展を載せなかったのは、そういう要素が強かったので企画展のラインには入れることが出来なかったです。さわる展示を疎かにしようという考えで載せなかったわけではありません。主体的に「さわる」に関係するところは、基本的には常設展に移行させたいです。さわる月間で足りない部分は、さわる月間という位置づけでしっかり PR しながら実施していきたいと考えています。先程の「後付けになっているのではないか。」ということですが、企画展に限らず総ての展示で常設展示の今までの分も含めて、後付の部分は頑張ってやっていきたいと思います。

（委　員）お考えは分かりました。中期計画で、さわる月間については記録にきちんと残すことが大事だと思いますので、当面さわる月間を続けていくという文言を書き加えて頂きたいと思います。

（副館長）次回から入れさせて頂きます。

（委　員）日本画で「さわる」ということですが、絵画は平面に見えますが表面はザラザラしていて、群青とか藍とか岩絵具の粒子の大きさによって色の濃さが変わるので、触ってよい日本画があれば触れないことはありません。また油絵を触ったらネチャネチャしています。材料その物は使えると思います。

（議　長）事務局の説明で、「これでもさわっといてもらったらいいのでは。同じ品物だったら飽きたら品物を換えて。」というようなニアンスにも聞こえ違和感がありました。民博の環境広場のような形での常設化ですと、さわるためのオブジェという展示開発みたいなイメージを受けるので、常設は固定化しないといけないし、固定化の目的がしっかりしていないといけないと思います。オブジェも換えれる品物ではないと思うので常設展示開発、常設化していく姿勢を聞かせてください。

（副館長）常設展を幾度も変えるつもりは今の所ありません。主体的に「さわる」ことは意義があると考えています。その考え方に沿って常設展に活かしていきたいと考えます。昨年までのさわる展では、一ヶ月余りだったものを資料の数は減りますが、いつでもさわれるレベルに。各それに相応しいオブジェが制作できるか予算に関係しますが、資料を常設化していきたいと考えています。相応しいものを収集するか制作していくかで、少しずつ増やすことで充実させていくことは、考えなければいけないと思います。

（委　員）特別展等展示中期計画（案）ですが、平成２８年度を初年として５か年計画ということで提示されています。５カ年計画の考え方、コンセプトをお聞かせください。

（副館長）総てに何かコンセプトがあってということではありませんが、基本的には、タイムリーな企画を考えています。その時期にふさわしいテーマで展覧会を実施していくという考えに立っています。例えば、平成３０年の西村公朝展は２９年度に作品を収集してそのお披露目も込めて３０年ということです。秋の操車場遺跡展は、岸部で新しい街づくりをしています。その街開きが平成３０年です。３１年は貴志康一生誕１１０年ということでタイムリーなその時期に関心を持たれる所に、展覧会をあてて行くという事を考えてやっています。

（委　員）館蔵品をどう活かすか。貴志さんとか吹田縁の人が多数いますが、縁の人を取巻く方々との関連も必要と思います。今回金子雪操一人を取上げていますが、比較できる大坂画壇の人々との関連にも力を入れて頂いたらと思います。５年であれば５年の流れとか、コンセプトを踏まえて計画的に実施して頂けたらと思います。

（副館長）関連の事も必ず滞らず出来るだけ早めに準備を整えて、展覧会を構成できるよう心がけてやっていきたいと思います。

（議　長）今年の夏季展示「どっちがどっち！？」のタイトルとか五反島にしても具体的にどういうものが触れたり見えたりするのか、タイトルに内容のキャッチが入っている方がいいと思います。一般の人が五反島遺跡と言われてもイメージできないし、何が見えるのかもイメージできないと思います。館蔵品を掲げたら、どんな館蔵品展なのかと同じで、さしあたって展示資料が分かっているので、キャッチタイトルの構想があれば教えてください。

（事務局）夏季展は、「まもる自然・つくる環境Ⅲ」実行委員会でタイトルを決めています。五反島遺跡は展示主旨に記載していますが、例えば、一つの種類。瓦なら瓦が沢山あるとか、須恵器の大甕が沢山あるとか、皇朝十二銭が何十枚もあるとか、一つの種類が沢山あるというのが謎めいている五反島遺跡展のポイントと思っています。後は木製品が数多くあります。保存処理の関係で出せるかどうか不確定ですが、要は物が沢山集まっていることがどういうことなのか。港なのか倉庫なのか、洪水に遭って船が沈没したのか、様々なことが考えられます。その辺を探ってみたいと思います。タイトルは悩んでいます。

（議　長）楽しみに待っております。

（委　員）中期計画（案）は、５年間の中期計画ですから５年で何をしたいか、他の委員の発言もありましたが、目的・成し遂げたいことがあった方がいいと思います。入館者数がたいへん重要な意味を持っていると思います。行政的には判断材料として取扱われることが多いです。貴館は、市民が一緒になって作るという稀有な館であること。一生懸命取組まれていることに私は関心がありますが、５年間で成し遂げたい、目的が入ると、評価作業をするのに何を元に評価するのか、何が３で、何が４なのかが明確になると思います。今のままですと一生懸命が通常であれば３なのか、このことでしか今は分かり

ません。中期計画はもう少し具体的な目標を持って、吹田市民による吹田市民のための博物館をどういう所に５年で持って行きたいのか、言葉が欲しいと思います。
（議　長）少なくとも目標とゴールはいるという感じです。
（副館長）展示に限らず博物館全体像のお話だと思います。展示の中期計画の目的は各々の主旨として書いています。博物館全体像のことは、参考資料として確定している第２次中長期計画に書いています。こちらに市民参画の項目ありますので、それを目標としながら目標に向かってゴールできればということで成果と課題とともに、中期計画・長期計画とに書き分けています。
（委　員）数字で評価するのに数値的目標がないので難しいと思います。最後の中期・長期にもある程度の数値が入った方がいいし、展示の方でも言葉があった方がいいと思います。
（副館長）展示の中期計画にも数字的な目標があればということでしょうか。
（委　員）それも全部連動しているべきだと思います。評価するには、数値目標がある程度入っているのが一般的ではないでしょうか。
（副館長）定性的評価も一定必要だと思います。数値目標が分かり易いのは確かです。併行しながら評価対象にしていきたいと思います。数値化できるものは今後していきたいと思います。
（議　長）入館者数は去年大分回復したと思います。この５年の数字をベース設定して、目標値をプラスして上げる数値化もあると思います。また、ここまで累積データ数字が出ているので、これを盛込むのも分かり易いと思います。Ｐ３４からグラフを作成しているので平均値を採らなくて、一番底数字をまずは定数として利用し、中期計画に盛込むのは、分かり易い目標が設定し易いと思います。
（副館長）別の評価では博物館の年間入館者数を使い、過去５年の平均値をどう取るかということを目標に数値化している評価もしております。整合性を持ちながら実施していければと思いました。
【６　案件（３）課題討論報告　博物館の平成２７年度事業点検・評価について】
（議　長）（３）課題討論に移ります。平成２７年度事業点検・評価が一番トータルに博物館を表現していますので、ご発言がなかった委員の方にもご発言頂けたらと思います。事務局、平成２７年度事業点検・評価について説明をお願いいたします。
（副館長）Ｐ２４からＰ３３報告。
（議　長）Ｐ３３の最後のアクセスの自己評価が入っていませんが。
（副館長）今、全市的に JR 岸辺駅前の街づくりに合わせて動き始めていますので、そこに合わせてやっていきたいと思います。これをやるための年度になっていないので評価できない所もありますので、３点ぐらいだと思います。
（議　長）（３）課題討論になっています。ご意見をお願いいたします。
（委　員）Ｐ３１の４の地域学習の拠点と連携でレファレンス業務ですが、Ｐ１２の説明の時には、半年間で３６件ですが、現在は、５７件で増えているという説明でした。レファレンス業務の増加は、一般の人が博物館を頼りにしている表れだと思います。どういう方々がどんな内容の照会をしてくるのか、差し支えがない範囲で教えて頂けますか。
（副館長）男性も女性も居られます。電話等の場合もありますが年齢層の偏りがあるとは思いません。内容は主に吹田の歴史についてです。展示を観られて思う所がありご質問に来られることもあります。
（委　員）専門的な質問はありませんか。
（副館長）展覧会に関しての質問は展示自体が専門的な所まで踏込んだ内容が多いので、それがベースになっての質問の場合もあります。それ以外は、そんなに深いお話はあまりありません。

（委　員）Ｐ２７『まもる自然・つくる環境―こんなのみつけたよー』ですが、大阪万博の１９７０年のその後の大開発が進んだ中で、特有な自然の部分がありそのまま残すことで、高野台近隣の池にヒメボタルが非常に多く出ています。ヒメボタルを大きく取上げて頂こうかなあと思います。
（事務局）ヒメボタルに関しては、毎年何らかの形で展示はしています。今年は「どっちがどっち」という大きな括りがありますので、ヒメボタルと源氏ボタルの比較で大きさや形が違うとか、分かり易く解説・説明する形になると思います。子ども向けのクイズと実際解説文というか保護者が理解して子どもに説明できる文章で紹介できればと考えています。
（委　員）競争的資金を結構取っていると思いました。費用や予算不足の時は外部資金を取るといいと思います。取れる物は取るという姿勢だったのか、たまたまそういう話になったのかお聞かせください。
（副館長）展示の補助金については美術展覧会への枠組が多いです。他分野は補助自体がほとんどありません。西村公朝展は、構想を膨らましていく段階で予算不足が見えてきたので応募しました。テーマから応募する前からある程度手ごたえは持っていました。今後もチャンスがあれば積極的に応募しますが、様々な分野の絡みもあり、毎回というのはむずかしいと考えています。
（議　長）予算執行の事務方の負担はいかがですか。
（副館長）今回は全部担当者と私でやりました。
（議　長）学芸の方の負担になっている。
（委　員）資料燻蒸ですが、燻蒸庫燻蒸が年２回、収蔵庫燻蒸３年に１回ですね。寄贈資料・寄託資料とか随時入ってくると思いますが、定期的に燻蒸庫での燻蒸をすることになっていますか。寄託なり預かって、何ヶ月間後に定期的な燻蒸期間に燻蒸する形になっていると思いますが、その数ヶ月間に他の資料と同じ所に所蔵されていると思いますが、そこで虫が着くということはないでしょうか。
（副館長）厳密に言いますと、今お話された通りですが、現実問題、頻繁に燻蒸庫燻蒸するのは、環境面も含め難しいです。昨年は年度末に集中して実施したのですが、好ましいことではありません。年二回実施ですので、同じ間隔を空けて実施するのが理想です。質問された燻蒸待ちの資料ですが、一時保管庫に入れ、他の資料には影響を与えないような形にしています。
（委　員）燻蒸待ちで入れているのに虫がついたどこかの古文書から被害に遭うことも有るということですね。
（副館長）可能性としてはあると思います。目視では中々分かりづらいようなところが多々ございますので、ある程度虫がいても止むを得ないレベルのものは一つにまとめて薫蒸待ちの一時保管庫に入れ、もっと厳密にしなければいけない美術資料は、同じ場所には置かず別管理をし、その後燻蒸処理により虫菌を除去しています。
（議　長）具体的に虫の捕獲はあったのでしょうか。
（事務局）２７年度は燻蒸庫燻蒸の関係でモニター調査を実施していないので、正確にはわかりません。２６年度では、コクゾウ虫の類はいました。常設展示室の露出展示でわら製品が展示してあるその周辺で少し見つかったということです。
（議　長）本格的な対策をする程ではない。
（事務局）表現が好ましいかどうかわかりませんが、通常いる範囲です。当館の特徴として山に面して立地していることもあり、虫が入ってきやすい環境でもあります。
（議　長）Ｐ３１、３２あたりでご発言頂けたらと思います。
（委　員）保護者と子どもの立場からで、中学校への地域史テキストの刊行で山田中学校との連携でテ

キストを刊行したということですが、今後、他の中学校と連携して刊行する予定はありますか。
（事務局）刊行は、４年前からで、佐井寺・豊津・第二・山田中学校で４校目です。今年度は旧吹田村地区の中学校で取組んでいこうと考えています。
（委　員）継続して欲しいと思います。博物館の活動内容は素晴らしいです。ここで聞いたりとか、説明を受けたりした時に、初めて、「そういうことなんだ」「こういうことなんだ」と感心することがあります。総てに、すごいなあと子どもにも感動して欲しいと思います。また、子どもが理解し易いようにして頂けたらと言うことと、小学校３年生を主体に「むかしのくらしと学校」ということで、児童が来館して場所を知り、展示を観て博物館に興味を持ってもらうことは大切です。中学生では友達を誘って博物館に来たり、高校生になって、より詳しく人物について「この人ってこんなことをしてる人なんだ」って子どもから教わることがあります。それってすばらしいなあと思っています。そういう子どもが一人でも多く増えてくれることを願っています。今日、気付いた方も居られると思いますが、駐車場に「トンネルを越えると博物館です」という看板が新たに設置されていました。駐車場に来た方がトンネルを越えられなくて、博物館が分からなかった方がたくさん居られます。看板を見てこの先に博物館があるんだと分かってくれる事が素晴らしいと思います。前後しますが、吹田に縁のある方を取上げて特別展を開催されていますが、「この人何で特別展なんだろう。」という方に分かり易いように、特に小・中学校に掲示されている特別展のポスターの横に、子ども・保護者・先生が見て、特別展の内容が理解し易い簡単に説明したものを A4 サイズぐらいで作って頂けたらと思います。
（議　長）子ども用展示シートの様なものを作成して配るということですか。
（委　員）絵が入って一見した時に興味が持てるような、足を運ぼうという気持ちになる分かり易い説明シートを願いします。講座に来館しそこから展示に広がっていくのはいいことだと思います。展示を目的に博物館まで足を運んでくれる人が一人でも増えたらなと感じています。
（議　長）さわるオブジェと共に開発していただいて。
（委　員）興味を持ってお話を聞かせて頂きました。チラシやポスターを学校で配布してくださいというだけで、担当の方が校長会に出席されてという現状があります。今回４年生が対象ということで、「すいたの自然発見シート」を見させて頂き、多くの児童が参加して自分の出したシートが展示につながり、博物館に足を運ぶ児童が増えて欲しいと思います。先程もお話しがありましたように、３年生社会科の「むかしのくらし」がメインになっています。５年生は、米づくりを学習します。市内に３６小学校がありますが、１０校ぐらいが自校にミニ水田を作り米づくりをしています。稲穂が実りカマで稲刈りをし、脱穀となった時に道具がありません。若い時に勤めていた学校は、寄贈の形で昔の農作業道具があり、その学校に千歯こきを借りに行って脱穀して収穫祭につなげた事もあります。地域の方に来て頂いてわら草履作り方を教えてもらったこともありました。農具なり民具がお借りできるとか、学校に来て頂いて教えてもらう事が出来る場があればと思います。６年生は、紫金山公園に登り窯を見学に来たり、吉志氏の話と関連しながら何か活動できないか。低学年は、紫金山公園に遠足に来ました。生活科との関連で、すいた自然発見シートの様な低学年版を作られたらと思います。以前、吹田の自然協会でセミの抜け殻やタンポポ調査などされていて、低学年も興味を持ってやったこともありました。博物館につながる何か。アクセスが不便な中、多くの学校が訪問して展示を見させて頂いているのは、すごいと思います。紫金山に来ている低学年の児童が、博物館も活用出来ることがあればと思います。
（副館長）小学校については、３年生はうまく出来ていると思っています。昨年からの理科で４年生。特に５・６年生に常設展示を何とか利用できないか、開館以来構想していますが上手くいきません。登

り窯のお話や低学年の紫金山公園の見学を活用しての生活科への対応もご相談できればと思います。
（議　長）今回は十分論議したと思います。時間が来ましたので議論・討論を打ち切りたいと思います。事務局から何かありましたら。
（副館長）今年度の事業評価についてですが、平成２７年度事業自己点検・評価にある自己評価点・自己評価・自己点検結果をご参考頂き、また今日のご議論を踏まえて頂いて５段階の採点と評価を文章化して頂きたいと思います。総てに渡るのは大変だと思いますので、例年１項目或は２項目について分担執筆頂いています。今年度の第二回博物館協議会で取りまとめたものを資料として提示したいと考えていますので、１０月中頃に評価を提出して頂くタイムスケジュールになると思います。
（委　員）今年と同じであった場合の評価は３に当たるのでしょうか。
（議　長）そうでもないと思います。
（副館長）それは委員の方のご判断でお願いします。目安として、博物館が考えているものを自己評価点として入れています。博物館はこの程度で「出来ている」、「出来ていない」、「普通」と思っていると、これである程度目安になるかと思います。
（委　員）自分の思うように付けていいですか。
（議　長）今年度は何もしなかったということを記述しているにも拘らず事務局評価は２点になっています。私は、何もしなかったら０点だと思っていますが。
（副館長）結果は何もなくても、一生懸命水面下で動いているというようなことで２点にしている場合もあります。
（議　長）これで平成２８年度第１回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。